

保健所における低出生体重児のearly interventionの試み

分担研究：ハイリスク児の発達支援（早期介入）システムに関する研究

分担研究者 前川喜平¹⁾

研究協力者 竹内恵子²⁾

共同研究者 小西行郎²⁾ 斎藤正一²⁾ 佐々木綾子³⁾ 谷口真理子⁴⁾ 斎藤智子⁴⁾

要約：福井市は未熟児センターをもつ3つの基幹病院があり、それぞれの病院が独自でハイリスク児のフォローアップを行っていて、そこでは総合的な育児支援を含めたearly interventionは行われていなかった。そこで平成8年度より福井保健所において県内の低出生体重児を集めて、医師だけでなく、理学療法士、作業療法士、助産婦、保健婦、言語療法士、心理学者やボランティアなどによる、early interventionを行った。一年目は2カ月に一回、2年目からは毎月行った。初めての参加者は「ましゅまるセミナー」に、2回目以降は「ステップ・バイ・ステップ」に参加してもらった。その結果、毎回2つのクラスで30名近くの参加があり、福井市周辺を含めた低体重出生児の約30%が一度は訪れたことになる。健康や栄養などに対する質問などが多く、育児不安を解消するのに有効であっただけでなく、母親同士の交流もあり継続を望む声が大きかった。

見出し語：early intervention(EI)、保健所、低出生体重児、育児不安

はじめに：ハイリスク児の広域的システムケアは周産期医療の大きな問題である。とくにこうした児を持つ親に対して早期に対応し、育児不安を軽減したり、家庭環境の整備を援助する発達支援が重要であるといわれている。しかし、福井では低出生体重児のフォローアップは未熟児センターをもつ病院がそれぞれ独自でおこなっており、どうしても医者が疾病の診断や治療を中心に経過観察をするというものが多く、発達支援（早期介入early intervention(以下EIと略す))が充分に行われているとはいえない状態であった。そこで地域に根ざしたEIをということで福井保健所でEIを平成8年度から開始した。2年目には回数も増やし、内容もさらに充実させた。ここではその現況と親へのアンケート調査の結果を含めて報告する。

研究対象・方法：平成8年5月から平成9年11月までに福井保健所管内で出生した生下時体重2,500g以下の低出生体重児である。これらの児は保健所からの呼掛けで集められた。初めての参加者は「ましゅまるセミナー」に、2回目からは「ステップ・バイ・ステップ」に参加してもらった。「ましゅまるセミナー」は小児科医や助産婦が講演し、その後小グループでの質疑応答、育児相談や個別相談を行った。「ステップ・バイ・ステップ」は小児科医、心理学者、理学療法士、作業療法士、言語療法士などがミニレクチャーをし、ついで集団で音楽療法を用いた

遊戯をする、ついで希望により発達テストを行うこともある。最初の1年は2カ月に一度、後の1年は毎月行い、隔月に保健婦だけの育児教室を行った。

アンケート調査は教室の後に、親に自由記述でアンケート用紙に記入してもらった。

結果：表1に福井県における出生児数と低出生体重児数の変化を示した。年間1万人あった出生数が平成元年には1万を割り、平成7年度には8,241人にまで減少した。しかし、一方低出生体重児は少しずつ増加しているのが解る。福井保健所管内でも同じ傾向であり、約200名の低出生体重児が1年間に生まれている。そのうち2,000g以上のものが150名近くを占める。表2は「ましゅまるセミナー」と「ステップ・バイ・ステップ」に集まった子供の数である。「ましゅまるセミナー」に集まったのは平均6～7名であり、「ステップ・バイ・ステップ」には17～8名が集まっている。平成7年度の福井県内の保健所別の出生数は表のとおりであるが福井保健所管内では187名の低出生体重児が生まれている。平成8年度には190名、平成9年4月～10月までに92名生まれており、そのうち平成8年度は51名、9年度は25名が「ましゅまるセミナー」に参加し、「ステップ・バイ・ステップ」には92名が参加している。これらの参加者56名にアンケートを依頼し、27名より回答を得た。回答はすべて自由記述とした。

アンケート調査の結果は代表的なものを示すと

①ましゅまるセミナー

¹⁾ 東京慈恵会医科大学小児科、²⁾ 福井医科大学小児科、³⁾ 福井県立大学看護短期大学部、⁴⁾ 福井保健所

¹⁾ Jikei University, Department of Pediatrics, ²⁾ Fukui Medical University, School of Medicine, Department of Pediatrics, ³⁾ Fukui prefectural University, School of Nursing, ⁴⁾ Fukui Public Health Center

普段は聞けないちょっとした悩みが聞けてよかったです。

先生の話聞いて「小さいね」といわれてもあまり気にならなくなりました。

子供の体のことや病院へ行こうかどうか迷っているようなことを、先生に聞けるので助かりました。

などという専門医師に気軽に答えてもらえることについての「声」がまず一番多かった。ついで、

同じくらいの月齢の子をもつ母親の声が生でできてよかったです。

初めての子育てで、しかも未熟児だったということで不安な面もありましたが、同じ境遇の人たちとの交流によりいろいろ話合いができ、スタッフの人たちや先生との話もでき、とてもよかったです。

他のお母さんと話合いができ、「どこも同じなんだな」という思いが湧き、なんかホットして子育てに自信が持てるようになりました。

という「声」が多く、母親同士の交流の場としてのセミナーの役割が確認された。

②ステップ・バイ・ステップ

ましゅまるセミナーと違ってステップ・バイ・ステップでは小さく生まれた子供さんでも、皆さんすくすく育てているし、心配ないんだなあと思ひ励まされました。病院のこともいろんな先輩ママに聞けたので助かりました。

お母さん同士のふれあいの場になり、自分の子供より他の子供の成長を見て楽しんでます。

外出する機会が少なかったもので、私にとっても子供にとってもよい気分転換になったと思います。

という「声」が多くなっており、医師や他のスタッフからのアドバイスにたいする感謝の声は少なくなっている。

考察：福井県、とくに福井市を中心とした嶺北地方は福井医科大学、福井県立病院、赤十字病院の3つの基幹病院の未熟児センターでハイリスク児の医療が行われている。しかし、いずれの病院でもEIを行

えるような十分なスタッフはいない。そして、ハイリスク児のフォローアップはそれぞれの病院において医師がほとんど行っている。そこで福井保健所と我々が共同でEIを行うようになった。2年を経過したが、約30%の低出生体重児が参加したことになる。「ステップ・バイ・ステップ」のほうむしろ「ましゅまるセミナー」より参加者が多いのは、参加者の年齢制限をしていないためと考えられる。また「ましゅまるセミナー」にきたものがほとんど「ステップ・バイ・ステップ」に参加していることは、一度参加してなんらかの得るものがあつたからと思える。また興味深かつたのは、参加した親の意見である。

「ましゅまるセミナー」では病院では聞きにくいことを聞けることが良かつたとの声が多く、ついで親同士の交流が挙がつたが、「ステップ・バイ・ステップ」では親同士の交流が多かつた。このことは親の意識の変化を如実に表していると思われる。

ハイリスク児のフォローアップが充実し、長期観察結果が明らかになるにしたがつて、こうした児に対する育児支援の必要性が叫ばれるようになり、各地でEIが行われるようになった。しかし、こうしたEIはNICU施設を持つた大きな病院を中心に行われことが多く、地域での実践はむしろ少なかつた。われわれは未熟児センターをもつ病院とは別に保健所でEIを行つたのだが、対象児の30%近くが参加しななかつたの好評を得た。病院とは違つて質問がしやすい、親同士が交流できるなどがその理由であり、平日の午後という参加しにくい時間にもかかわらず多くの参加があるという理由である。さらに保健所という地域性の高い施設でEIを行うことは地域ぐるみの育児支援を成功させるひとつのきっかけになるかもしれない。日時の問題や、親の自主的な取り組みをどのようにして育てるのか。EIの発達におよぼす影響をどのように評価するかなどいくつかの問題はあるものの一応われわれの試みは成功していると思われる。

参考文献

- 1) 松石豊次郎、石橋紳作、山下裕史朗他：極低出生体重児のearly intervention. 脳と発達 26: 149-155 1996
- 2) 神谷育司、鈴木雅子、斎藤さつき他：極低出生体重児のearly intervention について一聖隷浜松病院新生児・未熟児センターでの試み. 小児の精神と神経 36: 295-392

表1. 福井県における出生時体重別出生表

	年間 出生児	低出生 体重児	1000 g 未満	1000～ 1499 g	1500～ 1999 g	2000～ 2499 g	2000 g 以上	不詳
S50年	10,724	524	9	26	81	408	10,200	
S60年	10,044	513	17	27	74	395	9,530	1
H元年	9,015	520	7	19	90	404	8,495	
H5年	8,279	533	9	19	85	420	7,962	
H7年	8,241	564	16	30	60	457	7,677	

表2. ましゅまろセミナーと
ステップ・ハイ・ステップに参加した人数

	ましゅまろ	ステップ・ハイ・ステップ
8年7月	6	9
8月	6	11
11月	8	16
9年1月	9	15
2月	8	20
4月	7	21
6月	6	18
8月	7	17
10月	5	17



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:福井市は未熟児センターをもつ3つの基幹病院があり、それぞれの病院が独自でハイリスク児のフォローアップを行っていて、そこでは総合的な育児支援を含めた early intervention は行われていなかった。そこで平成8年度より福井保健所において県内の低出生体重児を集めて、医師だけでなく、理学療法士、作業療法士、助産婦、保健婦、言語療法士、心理学者やボランティアなどによる、early intervention を行った一年目は2ヵ月に一回、2年目からは毎月行った。初めての参加者は「ましゅまるセミナー」に、2回目以降は「ステップ・バイ・ステップ」に参加してもらったその結果、毎回2つのクラスで30名近くの参加があり、福井市周辺を含めた低体重出生児の約30%が一度は訪れたことになる。健康や栄養などに対する質問などが多く、育児不安を解消するのに有効であっただけでなく、母親同士の交流もあり継続を望む声が大きかった。